



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
村岡 良祐
(工業化学科3年)

生徒総会

15の質問と要望 進行もスムーズに



質問に答える上口護生徒会長

生徒総会が5月13日の7時間目に体育館で行なわれた。各クラスの原案審議は4月30日のLHRで行なわれ、8クラスから15の質問と要望が出された。生徒会長の上口護君(情3)と各委員長が回答した。

各議案はすべて承認され、8クラスから「ロッカーを設置してほしい」「Wi-Fiを強化してほしい」「花火は予算の無駄遣いで遠方からくる生徒の帰宅時間が遅くなるため廃止してほしい」などの要望と質問が出た。ロッカー設置は「予算やスペースの制約上難しいが良い環境づくり」に努める、Wi-Fiの強化は「授業での使用を目的としていて個人で休み時間の利用は想定していない」、花火は「工高祭の締めくくりとして来学期への意欲を高めるために実施している。アンケートで花火の継続の希望者が7割を占めていた。予算の関係上節目の年に実施する方向で検討する」と回答した。

上口会長は「入場時の整列が上手いかなかった。総会で質問が多かったが、進行は例年以上にスムーズだった。最後に個人から質問が出たが、うまく回答できた」と話した。

ものづくり コンテスト

土木科

測量部門

速さと正確さを重視 無駄のない動きを意識



左から佐藤君、秋好君、小森君(土3)

土木科は8月4～5日に帯広工業高校で行なわれる第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の測量部門に出場する。3年生の秋好遥輝君、小森創介君、佐藤純也君、2年生の下田遙斗君の4人から出場選手3人を決める。

土木科は8月4～5日に帯広工業高校で行なわれる第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の測量部門に出場する。3年生の秋好遥輝君、小森創介君、佐藤純也君、2年生の下田遙斗君の4人から出場選手3人を決める。

秋好君は「前回は計算ミスでチームの足を引っ張ってしまったので、今回はミスしないようにしたい。そのために焦らずに計算し、数をこなしている。自分以外のメンバーは大会に出場するのが初めてなので、リードして引っ張っていく。また声掛けやトラバースを回るときスピードを合わせて連携を取れるようにする。練習ではスピードを大事にし、特に正確性を重視している」と話した。

小森君は「好タイムを安定して出すことができないので、とにかくミスがないようにしたい」と語った。

大会で速さと正確さを発揮できるといって頑張る。緊張しないようにしたい」と語った。

佐藤君は「練習では据え付けの速さと正確性を重視している。計算も正確かつ速く解くように努めている。大会では練習よりも良い記録を出したい」と話した。

下田君は「先輩に追いつけるように据え付けや計算練習をしている。またスムーズに据え付けし、計算ミスに注意して素早くできるように意識している。手順通りにすること、に気を付け、ミスがないようにしたい」と語った。

ものづくり コンテスト

建築科

木材加工部門

道具を正しく使う 目標は作品の完成

建築科は6月19日に釧路工業高校で行なわれる第25回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会の木材加工部門に2年生の安芸綺花さんと朝比奈由依さんが出場する。

国大会北海道ブロック大会の木材加工部門に2年生の安芸綺花さんと朝比奈由依さんが出場する。

大会で速さと正確さを発揮できるといって頑張る。緊張しないようにしたい」と語った。

佐藤君は「練習では据え付けの速さと正確性を重視している。計算も正確かつ速く解くように努めている。大会では練習よりも良い記録を出したい」と話した。

下田君は「先輩に追いつけるように据え付けや計算練習をしている。またスムーズに据え付けし、計算ミスに注意して素早くできるように意識している。手順通りにすること、に気を付け、ミスがないようにしたい」と語った。

一人ひとりが善戦を 応援練習を重ねた

壮行式



抱負を語る山岳部部長の中村君(化3)

壮行式が5月2日の3時間目に体育館で行なわれた。12の運動部と放送局、ものづくりコンテストに出場する各部の部長と出場者が抱負や意気込みを語った。

委員長(情2)は「日本の抜けたあたり、校歌斉唱のときに選手が立ち上がるうしろしたたりしたが、それ以外は順調に進められたので良かった。選手一人ひとりが良い戦いができるように応援している」と語った。

島鼓汰郎応援委員長(土3)は「勝ち上り全道大会に出場してほしいという思いで応援した。私はけがをして練習に参加できなかったが、委員が昼休みの練習を重ねて壮行式ではうまくいった。完璧な応援だった」と話した。

議会議長の下村夏輝君(建2)は「各委員長から質問の回答をグループフォームでもらったので準備が早く済んだ」と語った。

議事は落ち着いて進められた」と語った。

補欠で3年生の赤間梨緒羽さんの3人が出場する。

競技内容は制限時間3時間以内に木材を加工して作業馬を作る。作品の奇麗さや線の汚れなどが審査される。練習は平日に2時間半、大会近くは休日6時間行なう。

安芸さんは「昨年は補欠として参加した。練習では奇麗に加工するために道具を正しく使うように心掛けていた。昨年は通して練習して時間が足りないと感じたので、今年大会では作品の完成を目標に頑張る」と話した。

指導している西川聡仁先生は「順位はこだわっていない。後悔しないように全力で取り組んでほしい」と語った。



工具箱

母の経験と勘はすごいと感じた出来事があった。半年前私が無くした腕時計が先日見つかった。昨年10月の新聞の全道大会後に無くしてからずっと行方が分からなかった。時計は入学祝いを買ってもらったものでとても悲しかった。無くしたことを親に言えないまま半年が経ち、ついに親に打ち明けた。母の勘で洗濯機の後ろを探した。するとほこりまみれの時計が見つかった。時間が経っているのに電池切れだと思ったが、25%しか減っておらず同時にカシオの時計はすごいと感じた。今、第二種電気工事士の資格取得を目指している。この資格を取得すると電気工事に携われるようになり、就職でも有利になる。暗記する量が多いが、危険物取扱者乙種第一、三、六類の取得も目指していることや部活動、アルバイトもあるため、勉強時間が足りないことが課題だ。そこで生活のリズムを崩さずに勉強するには娯楽の時間を減らすべきだと気付いた。▼睡眠、スマートフォン、SNS利用と動画の視聴が多く、寝るまで使っているため、朝の目覚めが悪い。また学校生活にも影響することがあった。資格の勉強が始まったので寝る前の使用を控えた。勉強が非常に取り組みやすくなった。▼試験まで1週間を切りラストスパートだ。電気の配線図を見て自分で複雑図を考え、解答する応用問題はどうしても苦手だ。一発で合格するため本気で試験勉強に取り組むたい。(電2稲留)

企業説明会

各職場の良さを理解 「将来をイメージできた」

24社が来校した企業説明会が5月7日に各学科で行なわれた。卒業生から仕事の内容や会社の雰囲気、福利厚生などを聞いた。3年生と2年生から感想やこれから取り組んでいきたいことを聞いた。

業科
工化学科

早めの面接練習 甲種危険物取扱者合格を

工業化学科は2、3年生が工業化学科製図室で三井化学株式会社市原工場や富士石油株式会社など4社の卒業生から説明を受けた。

齊藤城太郎君(3年)は「仕事で失敗しても、失敗したあとの行動が大事だという卒業生の話が印象に残った。」



三井化学の新野友也さん



北海道クボタの栢木嶺さん

報科
情報技術科

専門分野の勉強を頑張る 基本情報技術者の取得を

情報技術科は1〜3年生が大会議室で日立ハイテクフィロディング株式会社やJ・P OWEERテレコミュニケーションサービス株式会など4社の卒業生から説明を受けた。

片倉誠一郎君(3年)は「セイコーエプソンの説明が印象に残った。3日仕事をすれば3日休みという風に働いては音やにおいなど五感を使っ



J・POWERの谷口敦哉さん

土木科

やりがいや失敗談を聞く 企業の雰囲気や人柄を知る

では音やにおいなど五感を使って機械に異常がないかを調べていて、働くことの大変さを感じた。まだ就職したい企業は決まっていなかったが、これから資格取得のための勉強に力を入れ、甲種危険物取扱者と二級ボイラー技士を取得したい」と語った。

土木科は2、3年生が土木製図室で株式会社富士建設コンサルや荒井建設株式会社など4社の卒業生から説明を受けた。

福沢陸君(2年)は「セイコーエプソンの仕事内容や福利厚生について聞いて良かった。基本情報技術者の資格を持っているといいと知った。大学に進学し、成績を上げてぜひ入社したい」と語った。



新谷建設の川島龍二さん

建築科

現場監督を目指す 地図に残る仕事を

建築科は2、3年生が建築科製図室で株式会社日本建設や伊藤組土木株式会社など4社の卒業生から説明を受けた。



日本建設の西永拳也さん

電気科

班単位での作業で安心 電験三種を目標に

電気科は3年生が電気磁気実習室、2年生が自動制御実習室で株式会社荏原製作所や株式会社北海電工など4社の卒業生から説明を受けた。



荏原製作所の小林史弥さん

佐々木音空君(2年)は「給料や企業内のイベントなどについて聞いて良かった。企業ごとの雰囲気や社員の方々の人柄が分かった。私は道内のゼネコンに就職したいと考えている。荒井建設株式会社はすごく楽しそうだった。社員数も多く、会社がSNSで仕事やイベントの様子などを写真で発信していて雰囲気分りやすかった」と語った。

「現場の人へのあいさつやコミュニケーション能力は信頼関係をつくるためにとても大切なので、高校生のうちに身に付けたい。勉強と部活動の両立を目指す。手に職を付け、体力に自信があるので積極的に力仕事にも積極的に取り組みたい。将来は土地家屋調査士を目指している」と語った。

東海林虎太郎君(2年)は「卒業生は仕事のやりがいを『建築関係の仕事は地図に残る仕事』と話していた。職場の人へのあいさつやコミュニケーション能力は信頼関係をつくるためにとても大切なので、高校生のうちに身に付けたい。勉強と部活動の両立を目指す。手に職を付け、体力に自信があるので積極的に力仕事にも積極的に取り組みたい。将来は土地家屋調査士を目指している」と語った。

田中晴君(3年)は「株式会社北海電工の説明が印象に残った。班単位で作業をするので安心して仕事に臨める点の魅力だった。私は進学希望だが、就職するならここへ入社したいと考えている。これからより基礎学力を向上させたい」と語った。

佐藤想汰君(2年)は「株式会社荏原製作所に興味を持っていた。給料や福利厚生を詳しく説明し、生徒が興味を持つように話してくれて分かりやすかった。電気の仕事でも日勤から三交代制まで自分に合わせた働き方があることを知った。また仕事で使う資格を覚えてもらったので、今後の勉強の目標になった。電験三種の取得を目指して成績の向上に努力したい」と語った。

面談練習に取り組み、最後まで部活動と勉強を両立し、成績を向上させたい」と話した。 湊見拓未君(2年)は「将来は物流関係の仕事をした。就職先をどうするか不安だったが、自分がやりたいことを仕事にすれば良いとアドバイスをされて安心した。部活動と基礎的な資格取得を頑張りたい」と語った。

就職に向け成績向上を 基礎的な資格を取る

電子機械科は2、3年生がCAD実習室で株式会社北海道クボタ、日進設備工業株式会社など4社の卒業生から説明を受けた。

安田伶夢君(3年)は「会